

『誰でもできるタグラグビー トライセットキャンペーン』

実施レポート

学校名	おおい町立名田庄小学校	実施日	平成 25 年 5 月 8 日～30 日
担当教員名	赤井 孝行	実施学年・人数	3 年生・16 名

学校・学級紹介	<p>本校は福井県の西端に位置し、京都府との境にある山間部の学校である。全校児童は 122 名。旧名田庄村が、隣町の大飯町の合併しておおい町名田庄となった。</p> <p>3 年生は男子 9 名、女子 7 名の計 16 名。体育が好きで、特にリレーやドッジボールが好きである。鉄棒の逆上がりは、7 割の子どもができる。</p>
実施内容	<p>トライセットが来るまでは、タグの代わりに細いビニール製のロープを 40cm あまり両腰から垂らしていた。タグを取る感覚を掴ませるために、ロープを取り合うゲームをしていた。</p> <p>最初は、ボールに慣れるためにラグビーボールで前パスの練習をして、ボールの感覚に慣れるようにした。その後、ランニング・パスをペアで行った。この時は、バックパスで行った。</p> <p>次に、ディフェンスをオフenseから 1m 後ろに位置させ、オフenseがゴールまで逃げ切る練習を行った。初めはパスをしないで行き、慣れてきたら一人にパス、二人にパスと増やしていった。</p> <p>最後に、2 対 2 のゲームをして、パスで攻める感覚とタグをとるディフェンスの感覚を掴んだ後は、4 対 4、8 対 8 のゲームをした。</p>
指導のポイント	<p>タグをとることは難しくないため、タグをとる活動は、鬼ごっこやかけっこなどバリエーション豊かに取り組むことができる。</p> <p>パスを後ろに出すバック・パスも慣れてくれば問題はないが、パスの受け手が後ろに回り込むことが難しい。ゴールは前にあるので、どうしてもボールよりも前に進みたくなる。そのため、ボールよりも前に走ってしまう。ボールより前にいたのでは、パスをもらうことができない。このことに気づくのは時間がかかる。</p> <p>後ろに回り込む感覚をしっかり指導しないとゲームができない。慣れることが大切であるため、「習うより慣れろ」でゲームの中で覚えることができるように指導した。</p>
感想・印象 今後の展望	<p>ドリブルでボールを運ぶバスケットやサッカーなどの競技と違い、走るだけでボールを運ぶことができるので、低学年の子どもたちにとってタグラグビーは取り組みやすい。ドリブルをしないので、走ることに専念できる。そのため走力がつく。自然と長い距離を走るので持久力がつく。ディフェンスをかわすために自然とステップを踏むので、敏捷性が養われる。他の競技と違い、ドリブルという難しい技術が必要ないために、総合的な走力・脚力が身に着く。</p> <p>また、ボールを持っている人の後ろにつかなくてはいけないため、フォローする気持ちが自然と出てくる。一人では攻めきれないので、チームとして動こうという気持ちが出る。チームワークが育まれる。</p> <p>タグラグビーは楽しみながら走力・チームワークを大切にすることが習得できるゲームである。</p>